

お気軽にお問い合わせください

COILについてもっと詳しい情報が欲しい

- こんな国・地域や学問分野の先生と授業でコラボしてみたい
- 自分の授業に取り入れてみたいので、コンサルをしてほしい
- 海外大学とつながるための ICT 機器を貸し出してほしい
- オンライン協働学習に有用なソフトウェアを教えてほしい



グローバル化推進センター
講師

仙石 祐



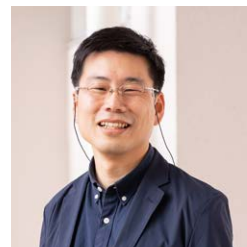
グローバル化推進センター
助教

アマンダ・シュッツエ



e-Learning センター
准教授

新村 正明



e-Learning センター
助教

松村 宣顕



〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学グローバル化推進センター
TEL:0263-37-2865 FAX:0263-37-2181
MAIL:su_coil@shinshu-u.ac.jp
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/>



お問い合わせ
フォーム



国際協働オンライン学習



次世代の学びに欠かせない

Collaborative COIL

Collaborative Online International Learning



online

International

Learning



グローバル化推進センター(GEC)では, COIL (Collaborative Online International Learning)と呼ばれる海外の大学とのオンライン協働学習を推進しています. 今回, COILを信州大学の教育活動に取り入れるプロジェクトとして“SU-COIL”を教職員の皆様にご紹介し, ご理解とご協力を賜りたく, このパンフレットを作成した次第です.

COILは, オンラインによる一方向的な知識の教授ではなく, 世界各地の文化的背景の異なる学生を繋いで協働学習する教育手法です. 新型コロナウィルス感染症の世界的拡大により国境を越えた学生の移動がほとんど停止している状況下において, 留学に代わる学習機会を提供する仕組みとして注目されています.

一方で, インターネットを介して世界の学生が繋がり共に学ぶCOILの学習スタイルは, 留学の代替策に留まらず, Society 5.0時代における教育のDX化を促進する世界のニューノーマルになっていく可能性を秘めています. COILはPLAN the N・E・X・Tにも明記されている国際共修(国内学生と留学生の意義ある学び合い)を推進する有効な手段であり, キャンパスが分散する本学に親和性の高い教育手法です. GECでは, 本プロジェクトに賛同し, ご自身が実施される教育にCOILを取り入れていただける教職員の皆様の1人でも増やしたいと考えており, 教職員を対象としたFDやCOIL実施のための個別コンサルティングの実施, 協働学習の質を向上させる各種ICT機器の貸出しも行います. また, 今後は海外のパートナーを増やすために, 協定校への“SU-COIL”プロジェクトの広報活動も進める予定です. 是非このパンフレットをご一読いただき, “SU-COIL”プロジェクトに興味のある教職員の皆様は, お気軽にGECまでご相談いただければ幸いです.

副学長(国際交流担当)・
グローバル化推進センター長
田中 清



COILとは | ABOUT COIL

COILとは、Collaborative Online International Learning の略称で、ICT を活用してバーチャルに海外の大学とオンライン協働学習を行う教育手法のことです。異文化交流や外国語を用いた学習による学生の成長を目的として行われ、あらゆる分野の専門教育にも拡大しています。COIL では、日本国内の大学の教員と海外の大学の教員が学習目標を共有して授業をと共にデザインし、一方向的な講義のみではなく、PBL やディスカッションを取り入れた授業を行います。教室はオンラインでつながれ、様々なコンテンツを共有しながら進められますが、多様性や協働を重視する観点から、反転学習やアクティブラーニング形式を多く取り入れる傾向にあります。また同期型と非同期型を組み合わせることもできます。こうした COIL 型授業は学生の自己効力感が高いことも知られています。また COIL は既存のハードウェア及びソフトウェアを使ってスモールスタートするので、無理なくプログラムを始めることができ、授業の意図に合わせてコミュニケーションツールをカスタマイズすることもできます。この度グローバル化推進センターと e-Learning センターの教職員の協働により、"SU-COIL" プロジェクト推進を目的とする COIL サポートチームを結成し、COIL 実施に興味のある信大の先生方の支援をさせていただくことになりました。信大の教室と世界の大学の教室を、時空を超えて結びつけてみませんか？



学生の利点 | BENEFITS FOR STUDENTS

- 批判的思考分析力・企画構成本力・チームワーク・デジタルリテラシーといった次世代型人材の能力育成に効果的である
- 留学に必要な学費や移動のコストを抑えることができる
- 海外留学を希望する本学の学生のモチベーションを刺激することができる
- 海外の大学の学生に、本学での学びの魅力を伝えることができる

自分の地元について紹介することで自分の国や出身地域のことをより深く考えるきっかけになった。英語を聞き取ったり英語で話すのは大変なこともあるがその分成長も大きいと思う。

VOICE OF STUDENTS #1



自分が普段使わない言語でコミュニケーションを図ることで知的好奇心や、言い換え表現を楽しむことができ、普段味わうことのないようなことが体験できました。

VOICE OF STUDENTS #2



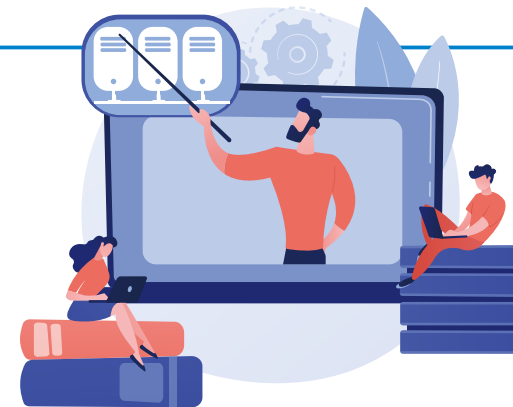
私は今まで海外に行ったことがなく、外国の人と交流する機会があまりありませんでした。そのため実際にコミュニケーションをとることができてとても楽しかったです。相手に伝わるように英語を使ったり、やさしい日本語を使うことでお互いに異文化を学ぶことができました。

VOICE OF STUDENTS #3



教員の利点 | BENEFITS FOR TEACHERS

- リモートのまま国内外の教員と協力することができる
- 多様な COIL の形態を取り入れることができる
 - ・ パートナー大学との協働プロジェクト、COIL コンソーシアムプログラムに参加、バーチャルインターンシップ…
 - ・ 1 回のみの試験導入・数回のプロジェクト・15 回の COIL 専用授業…
- 共通教育と専門教育の両方に取り入れることができる



よくある質問 | FREQUENTLY ASKED QUESTIONS

Q1. COIL を試してみたいが、何から手をつけていいかわからない

COIL にはプログラムを共同実施する海外の大学のパートナーの先生が必要です。まずは一緒に共同研究した先生や、COIL に興味のある先生に、オンラインで協働学習をしてみないかと声をかけてみてください。もしこちらの意図がうまく伝わるか心配な場合は、COIL サポートチームにご連絡ください、間に入って調整をさせていただきます。また COIL に興味はあるけれど海外の大学にお知り合いがない場合、パートナーの候補になるのは信大の協定校の先生です。ご希望の国・地域や分野をお知らせください。調整に時間がかかる可能性がありますが、COIL サポートチームがパートナーのマッチングをさせていただきます。

Q2. シラバスはすでに決まってしまうので、COIL を実施する余地がない

正課においてはシラバスに従って授業を行うことが重要ですので、もしシラバスに記載された範囲内で COIL を試してみる余地があれば、検討してみてください。COIL は授業 15 回を全てオンライン協働学習に充てなければならないというものではなく、(1). 1 回のみを COIL に充てる、(2). 3, 4 回を COIL に充てる、(3). それ以上の回を COIL に充てる、等のパターンに分けられます。まずは無理なく(1). または(2). からのスタートがお勧めです。基本的には教員が個人で自分の授業に COIL を取り入れてみることを想定していますが、部局や学科等での導入をご検討の場合は COIL サポートチームにご相談ください。また COIL は正課外の活動でも役に立ちます。海外の大学との数回のプロジェクトや研究室どうしの共同ゼミにも COIL の導入をご検討ください。

Q3. オンライン協働学習には特別なデバイスが必要か、また ICT 機器の取り扱いに自信がない

COIL では両大学の教員が学習目標をよく擦り合わせて協働学習を実施することが重要で、何らかの形で両大学の学生と教員がつながってさえいれば COIL は始められます。つまりすでにお持ちの最低限のハードウェアと最低限の無料のソフトウェアがあれば、COIL を始めることができます。しかしより先進的で便利なツールがあれば教育効果が上がり学習目標も達成に近づく場合、新たなハードウェアとソフトウェアを導入することには大きな意味があります。GEC では後述のような各種ハードウェアを揃え、COIL を実施する先生に貸し出す準備を整えておりますので、ぜひお声がけください。また便利なソフトウェアの紹介やその使用方法の FD も承っております。さらには状況に応じて COIL サポートチームの現場立ち合いと補助も可能です。お気軽にご相談ください。

人文学部

人文学部では COIL の一環として多文化交流サロンと外国語サロンを開催し、研究・教育両面における国際化を進めています。2020年度における多文化交流サロンは8回、いずれもオンラインで行われ、うち7回は海外（マレーシア・中国・オーストリア・ドイツ・英国・台湾・フランス）在住の講師（研究者含む）に講演を依頼しました。外国語サロンもオンラインで行われ、特に中国語・韓国語をメインにネイティブの講師による外国語実践および、諸外国の文化的背景にかかわるレクチャーを受ける機会を確保できました。これらの取り組みは、コロナ禍における移動制限のなかでむしろインターネットを通じた文化交流が容易に行いえることを気づかせてくれました。



外国語サロンの様子



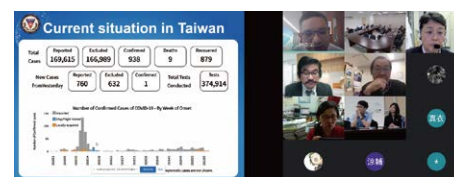
多文化交流サロンの様子(フランス)

医学部

医学部医学科では2020年8月に初のCOILをイタリアのトリエステ大学と行いました。COVID-19による生活変化、政府の対応の違いを議論しました。10月には第2回目のCOILをタイのマヒドン大学医学部と行い、COVID-19による授業形態や臨床実習の変化を報告しました。さらに2021年2月には、台湾の高雄医学大学と大学院生研究発表会を行いました。オンライン交流のメリットは、簡単かつ頻回に海外協定校とつながることができることです。アフターコロナ時代には、COILと実際の留学を組み合わせ、充実度の高い研修を提供したいと考えています。そのためにも、今はCOILの経験と技術を高めていく時期と認識しています。



トリエステ大学とのCOILの様子



高雄医学大学との大学院生研究発表会



マヒドン大学とのCOILの様子

農学部

未曾有のコロナ禍の中で国際交流活動は新たな局面を迎えました。農学部では、タイ、韓国、ドイツなど多くの協定校と交流活動（海外農学実習、短期留学など）を進めてきましたが、すべて中止となりました。そこで今年度は協定校とオンラインでつなぎ、海外教員を迎えて英語講義を充実させました。また、協定校教員同士の企画により、オンラインでの合同の研究セミナーを実施しました。オンラインでの国際授業は「国際交流=留学」という既存概念を打ち消すものと実感しました。次年度からは、これまでに構築してきた海外ネットワークを礎に国際共修授業を開始します。留学を伴わない国際交流の可能性について追求し、グローバル化を加速させていく予定です。



韓国・セジョン大学の教員による講義



ドイツ・ロテンブルク林業大学教員による授業



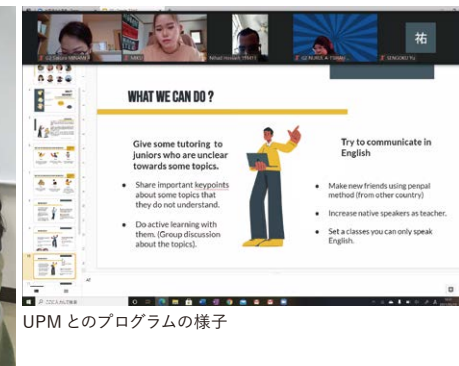
セジョン大学・カセサート大学との3か国合同セミナー

グローバル化推進センター

グローバル化推進センターでは、全学横断特別教育プログラム「グローバルコア人材養成コース」における海外研修の代替として、2020年度は海外の大学と共同で3つのCOIL型教育プログラムを開発及び実施しました。「UPM（マレーシアプトラ大学）との共同オンライン海外インターンシップ」、「タンデム型学習によるUPMとの社会課題解決型共修プログラム」、そして「ノヴォシビルスク大学（ロシア）との協働学習プログラム『五感で学ぶ JAPANOLOGY』」では、多くの信大生が海外の大学生とともにオンラインで英語講義やグループワークに取り組み、協働によって言語や文化の壁を乗り越え1つのプロジェクトをやりきるという経験をしました。



ノヴォシビルスク大学とのプログラムの様子



UPM とのプログラムの様子

貸出機材例 | EQUIPMENT

※他にもございます。お問い合わせください。



WEB会議システム



ペンタブレット



ノートPC



マイク



マイクスピーカーシステム



スイッチャー



ハンディビデオレコーダー



三脚



照明

有用なアプリケーション | USEFUL APPLICATIONS

1. アイディア共有・ブレインストーミング

Padlet, Miro, Mindmeister, Trello, Slack...

2. 作業でのファイル共有

Google Drive, Dropbox...

3. ソーシャルコミュニケーション

Facebook...

4. テキスト・イメージコミュニケーション

WhatsApp, Line, Instagram, Snapchat, Twitter...

5. ビデオコミュニケーション

Skype, Zoom, Google Meet, Microsoft Teams, FaceTime...

6. 動画作成ツール

FlashBack Express, Filmora, EZvid

7. その他

SurveyMonkey, Google Form (Web 調査ツール),
Knovio, Prezi (オンラインプレゼンテーション)